オアシス

文責：副学長
桑 原 雅 次

出雲芸術アカデミーだより　２０２１年６月１６日発行　第３７号

新しい年度がスタートして１ヵ月が経過しますが、今年は梅雨入り宣言が早く５月の爽やかな季節が堪能できなかったことが心残りとなりました。ところで、梅雨という季語の起源について先ごろ新聞記事に載っていました。「中国・長江流域で梅の実が熟す頃の雨を古くから梅雨（ばいう）と呼んだ。」というものでした。気候変動が激しい昨今では、梅の実もあまりにも早い梅雨入りに、さぞかし気をもんでいることでしょう…。

◎ 令和３年度が始まる！

例年ですと盛大に入校式を開催し、新入生を迎えるところですが、今年度はコロナウィルス感染症防止対策のため、本科の新入生と保護者を対象に「新入生ガイダンス」という形で縮小して執り行いました。

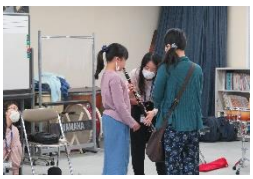
オープニングは、本アカデミーならではの演出で「出雲フィルハーモニー・チェンバーオーケストラ」の皆さんによる「乾杯の歌（歌唱付き）」を、芸術監督の中井章徳氏の指揮で始めました。オーケストラの音色を間近で聴けることは、新入生にとっても初めての体験であり、これからそれぞれが取り組もうとする受講内容への意欲を掻き立ててくれたことと思います。

引き続きガイダンスでは、事務局からの説明や芸術監督からの励ましの言葉がけがあり、今後、本アカデミーでの過ごし方や学ぶ意識づくりについて参考になるお話が聞けたのではないでしょうか…。

エンディングは、「トゥモロー」を、再びチェンバーオーケストラの皆さんによる演奏で説明会を締めくくりました。

その後、楽器未経験者のために楽器体験のコーナーが設けられ、２日間にわたってそれぞれの楽器の指導講師が懇切丁寧にかかわりました。新入生が納得できるまで各楽器の体験が行われ、今後長い付き合いになるべく、やりたい楽器が決定したようです。

本アカデミーで受講する内容は、決して楽なものではないですが、コツコツと積み上げられた練習成果は、やがて受講生による合奏体験に発展し、ステージ発表で何物にも代えがたい感動を体験することになることでしょう…。その感動体験が生涯にわたって心の支えとなり、豊かな社会生活につながっていくことを願ってやみません。



◎ 心肺蘇生法の講習を開催しました！

本アカデミーの受講生は、幼児科、本科、別科を合わせて総勢３４２名（6/1 現在）が在籍しています。幼児から高齢者まで、幅広い年齢層の方々が受講されていますが、いつ何時「応急措置」が必要になるとも限りません…。本アカデミーにも AED の設置はしてあるのですが、肝心の使い方がわからなければ意味を成しません。このような状況を改善するために、専門知識のある方をお招きして講習を受けることが急がれていました。
先日、危機管理の一環として、本アカデミーの事務局職員を対象とした「心肺蘇生法」講習会を実施しました。講師には、出雲市消防本部から応急手当普及員に来ていただき、最新の応急手当の方法を学ぶことが出来ました。実際にダミー人形を使い、胸骨圧迫の方法を体験し、１分１秒を争う現場では、人命を救助することがどれだけ尊く勇気がいる行動であるかを学ぶことが出来ました。そして、AED の使い方も習得できたことは、人命救助の場に立ち合うことがあった時には躊躇なく使用できる自信にもつながりました。

呼吸や心臓が止まった時の措置として、最新の応急手当では、以前なら「胸骨圧迫」とマウス to マウスによる「人工呼吸」を交互に行うことが推奨されていました。しかし、昨年来よりコロナ禍における感染対策として「人工呼吸」は行わないことが強調されています。応急手当では、救急隊が到着するまで、とにかく「胸骨圧迫」をし続けることが最も重要であることを気付かせていただきました。

つぶやき

昨年からコロナウィルスが世界中を席巻し、あっという間にパンデミックに襲われ、社会生活に多大な影響を及ぼしている。本アカデミーの事業も漏れなく延期や中止に追い込まれた…。このような状況下でも、芸術・文化の灯を絶やさないために関係者は必死でアイデアを練り、感染対策を徹底しながら公演事業などを細々ながら開催することが出来た。事業などが開催できることはまだ良い方で、世の中の情勢を見てみると、度重なる緊急事態宣言の発令がなされている地域では、飲食業を中心に営業が制限され、悲鳴すら聞こえてくるような状況報道に胸が痛い想いである…。コロナ感染を何とか止める方策として人流を抑える取り組みには共感もできるが、日々の商売ができなくなることで、生活に多大な影響が出ることは想像に難くない。

一方で、オリンピック・パラリンピックの開催が間近にせまり、このような状況下で開催をする是非をめぐって国会論戦が激しさを増している。質問に対する各閣僚の答弁を聴いていると、あまりにも幼稚すぎる受け答えに憤りを感じることがある。このような答弁を「やぎさん答弁」と言うそうだ。童謡で質問の中身を読まずに手紙を食べてしまうかのような姿勢を評したという。やはり責任は国民か…？

選挙で選ばれているのだから…。　　【意見には個人差があることを申し添えます】

【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します https://www.izumo-zaidan.jp/academy/】